

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	873900450		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームたまり		
所在地	小美玉市栗又四ヶ2284-1 (電話) 0299-28-2333		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年7月8日	平成20年11月14日	

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算	12.2人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り 1階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000~31000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月20日現在)

利用者人数	27 名	男性 10 名	女性 17 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	
年齢	平均 82.07 歳	最低 64 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院 はせがわ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長の奉仕の思いやりを込めた「やさしく、しんせつ、ていねいに」を基本理念としている。
3ユニットのどこからでも眺められる庭や2匹の犬の存在が、利用者の心を癒している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題は管理者が変わったことにより改善されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を振り返りの機会と捉えているが、外部評価の結果を具体的に検討するまでには至っていないので、外部評価の意義や目的について管理者や職員で話し合いサービスの質の向上に努めることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の開催までには至っていない。 会議は、市関係者や地域の代表、利用者及びその家族などを委員とし2ヶ月に1回開催するとともに、委員からでた意見を活かし、サービスの質の向上に努めることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情箱を設置し、家族等から意見・苦情を汲みあげる体制になっているが、家族等から直接意見を聴くことが多いため活用されていない。 家族等からの苦情などを記録するとともに、サービスの質の向上に反映することを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入していないが近所の方々に挨拶するとともに、ホームの回覧板を回してもらっている。 自治会に加入し、地域の一員として行事に参加するなど、地域と更に交流をすることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設置法人の病院の理念である「やさしく、しんせつ、ていねいに」を各ユニットに掲げている。	○	地域のなかでその人らしく生活することを支えるケアを具体化した、地域密着型独自の理念を全職員でつくることを提案する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るため朝礼やミーティング時に唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、近所の方々に挨拶するとともにホームの回覧板を回してもらっている。	○	自治会に加入し、地域の一員として行事に参加するなど、地域と更に交流することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を振り返りの機会と捉えているが、外部評価の結果を具体的に検討するまでには至っていない。	○	外部評価の意義や目的について管理者や職員で話し合いサービスの質の向上に努めることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催に至っていないが8月に開催する予定である。	○	運営推進会議は、市職員や地域の代表、利用者及び家族などを委員とし2ヶ月に1回開催するとともに、委員からでた意見を活かし、サービスの質の向上に努めることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と連携をするまでには至っていない。	○	運営推進会議以外にも市主催の研修会などで情報を得るとともに意見交換や助言を受けるなど、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に健康上のことや日々の暮らし、小遣いの使用状況を報告している。	○	金銭については出納簿をつけて管理しているが、家族が確認した日付け・印鑑またはサインをもらうことが望まれる。 ホーム全体の報告はホーム便りを発行するなど、定期的に報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、家族等から意見・苦情を汲みあげる体制になっているが、家族等から直接意見を聴くことが多いため活用されていない。	○	家族の意見や苦情を運営に反映するような仕組みには至っていないので、苦情などを記録するとともに、サービスの質の向上に反映することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に異動があった場合は職員間で十分な申し送りを行い、利用者へのダメージを最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の必要な研修に参加しているが、その他の研修は職員が自発的に受講している。研修報告書や資料がなく、内容を職員間で共有するまでには至っていない。	○	会議などを利用して研修報告の機会をつくり、内容を共有するとともにサービスの質の向上を図る仕組みの構築が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内のグループホームの連絡会に出席しているが同業者との交流はなく、ネットワークづくりや学習会は行っていない。	○	市にネットワークづくりを提案しているのでその実現と、グループホーム連絡会での勉強会や相互訪問等を通じてサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は実施していないが、見学をしてもらい馴染んでから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることを一緒に行ったり、教えてもらったり支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりのなかで利用者の思いや希望の把握に努めるとともに、希望にそって支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、担当職員でサービス担当者会議を開き介護計画を作成している。	○	家族にサービス計画書を提示し、同意の記名と押印またはサインをもらうことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しているが、状態に変化が生じた場合はその都度会議を開いて介護計画を見直している。	○	モニタリングの結果を記録し、介護計画に反映することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設置法人が病院なので利用者の状況に応じ、医療と連携を図りながら柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に協力病院を説明するとともに、適切な医療が受けられることを伝えている。 また、利用者の希望によりかかりつけ医に受診することも支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期は病院で対応することになっているため、家族の希望がないことから基本方針は決めていない。	○	利用者や家族、協力病院の意向を聞きながら、重度化や終末期の看取りについて、方針の統一を図るとともに指針を作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の感情によりプライバシーを損ねるような言葉が生じることがある。	○	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重した取り組みを全職員で学習していくことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に施設の生活の流れはあるが、食事や入浴時間以外は自由に過ごしている。	○	車がないため外出や買い物の希望にそえない状況であるが、一人ひとりの状態や思いに配慮するとともに柔軟に対応することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは設置法人で決めており、配達された食材でホームの職員が作っている。行事のときは利用者に希望を聞きながらメニューを変更している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午前と決まっているが、入浴を好まない利用者には夜間入浴を試みたり、清拭をするなどその人にあった対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で利用者ができそうなことは声をかけ、洗濯物たたみや掃除など職員は見守り支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望はあるが散歩は施設の庭程度である。	○	利用者の希望を聞き好みの場所へ出かけるなど、気分転換を図ることが望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけているが、ユニット間の移動は自由に行っている。外に出たいときは職員に声をかけてもらい対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練は年2回行っている。	○	避難訓練時地域に声をかけ、協力体制を整えるとともに、非常用食品や備品等を準備しておくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックはしているが、水分量を把握し記録するまでには至っていない。 食事量の記録の仕方を申し送りで決めたことが守られていない。	○	健康状態の目安である食事量や水分量をチェック表に記録するとともに、職員間で情報を共有することを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音声や採光などに配慮しているが、温度計を設置していない。	○	体感温度で室温を決めているが、高齢者と職員とでは異なることを認識し、温度計を設置することを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた物品を持参し、連れ合いの遺影や位牌を置いて朝夕祈るなど、思いの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。